

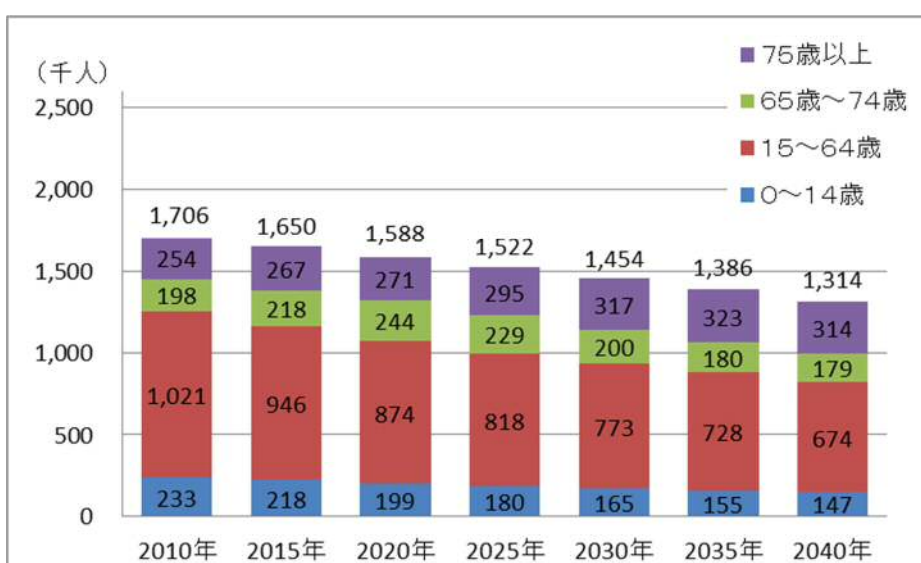
第2章 本県の人口推計等

第1節 人口の将来推計

1 総人口の推移

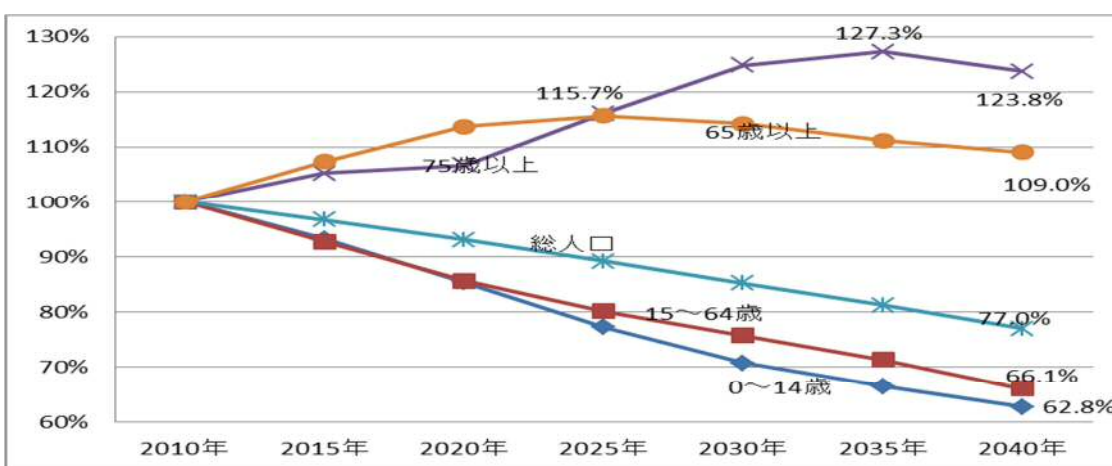
- ・ 本県の総人口は2015（平成27）年の約165万人から、2025（平成37）年には約152万人、2040（平成52）年には約131万人に減少することが見込まれている。
- ・ 年代別にみると、65歳以上人口は2025（平成37）年まで増加する見込みであるが、75歳以上人口は2035（平成47）年まで増加する見込みである。

【図表2-1-1】本県の将来推計人口¹の推移



[国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3月)]

【図表2-1-2】本県の年代別将来推計人口の推移



[国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3月)]

¹ 将来推計人口

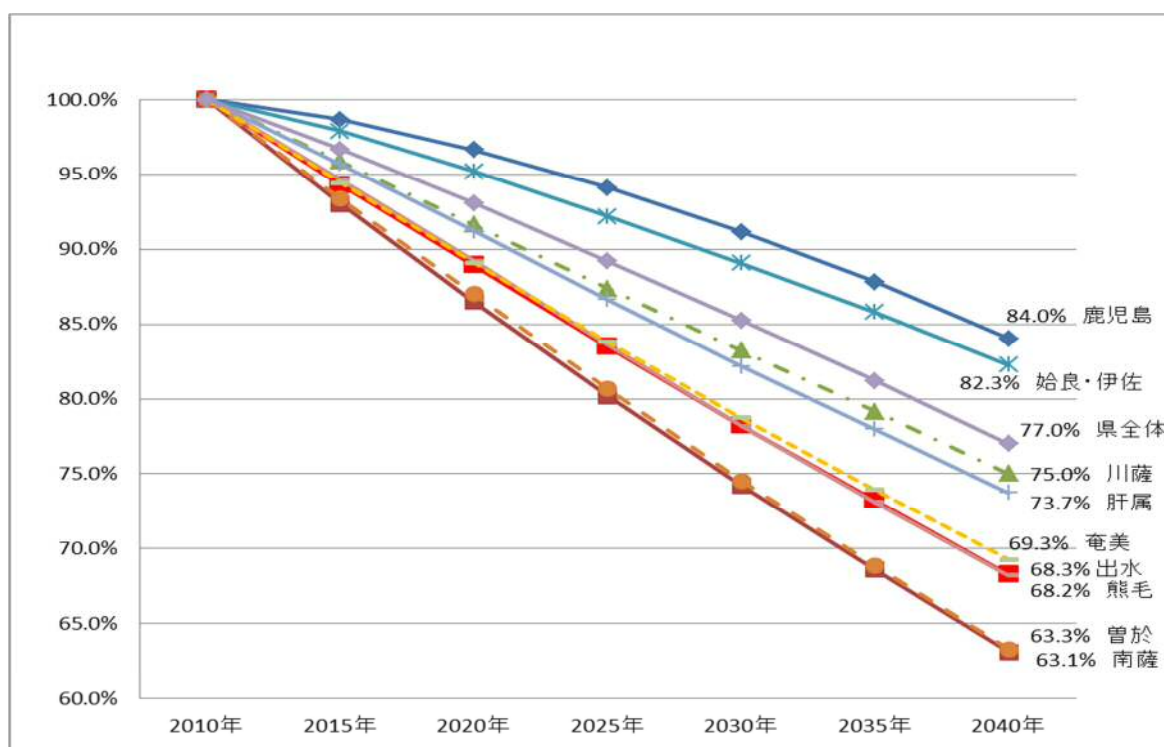
地域医療構想においては、将来推計人口については、厚生労働省の通知に基づき、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月中位推計）」の値を用いている。

2 二次医療圏ごとにみた人口の推移

- ・ 二次医療圏ごとにみると、全ての医療圏で総人口は減少する見込みであるが、南薩、曾於については減少率が他の医療圏より大きい。
- ・ 65歳以上人口については、全ての医療圏で増加が見込まれるが、2025（平成37）年以降、一部の医療圏が減少に転じる見込みである。

【図表2-1-3】二次医療圏ごとにみた人口の推移(2010年比)

医療圏	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
鹿児島	100.0%	98.7%	96.7%	94.1%	91.2%	87.8%	84.0%
南薩	100.0%	93.0%	86.5%	80.2%	74.2%	68.6%	63.1%
川薩	100.0%	95.9%	91.6%	87.4%	83.2%	79.2%	75.0%
出水	100.0%	94.3%	88.9%	83.5%	78.2%	73.2%	68.3%
始良・伊佐	100.0%	97.9%	95.2%	92.2%	89.1%	85.8%	82.3%
曾於	100.0%	93.4%	87.0%	80.7%	74.5%	68.8%	63.3%
肝属	100.0%	95.7%	91.2%	86.6%	82.2%	78.0%	73.7%
熊毛	100.0%	94.6%	89.2%	83.6%	78.2%	73.1%	68.2%
奄美	100.0%	94.4%	89.1%	83.8%	78.7%	73.9%	69.3%
県全体	100.0%	96.7%	93.1%	89.2%	85.2%	81.2%	77.0%



[国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3月)]

【図表 2-1-4】 二次医療圏ごとにみた 65 歳以上人口の推移 (2010 年比)

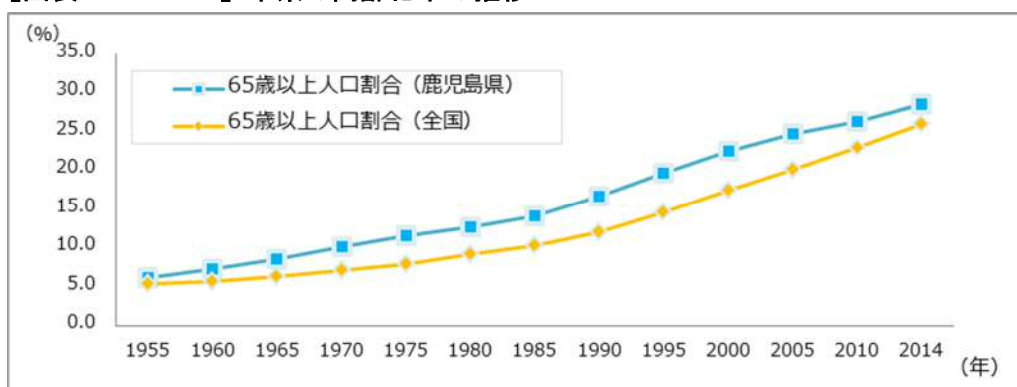
医療圏	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
鹿児島	100.0%	114.4%	125.7%	131.3%	133.0%	133.2%	134.7%
南薩	100.0%	100.8%	102.4%	99.8%	93.6%	86.4%	79.4%
川薩	100.0%	103.6%	107.1%	106.8%	104.6%	100.7%	97.8%
出水	100.0%	103.6%	106.2%	104.7%	100.8%	95.6%	91.2%
始良・伊佐	100.0%	108.6%	115.3%	118.1%	118.0%	116.5%	116.1%
曾於	100.0%	101.6%	103.8%	102.1%	96.3%	88.8%	81.3%
肝属	100.0%	103.4%	106.2%	106.1%	102.9%	97.9%	93.8%
熊毛	100.0%	102.7%	106.6%	105.9%	101.5%	95.8%	90.8%
奄美	100.0%	102.6%	108.1%	110.7%	108.5%	104.1%	100.3%
県全体	100.0%	107.4%	113.7%	115.7%	114.2%	111.2%	109.0%

[国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3月)]

3 高齢化の進行

- ・ 本県の 65 歳以上人口が総人口に占める割合は、年々増加しており、2014 (平成 26) 年で 28.6%と、全国 (26.0%) より先行して高齢化が進んでいる。
- ・ また、本県の 75 歳以上人口が総人口に占める割合は、他県に比較して高い。

【図表 2-1-5】 本県の高齢化率の推移



[1955年(昭和30年)~2010年(平成22年)は総務省統計局「国勢調査」]

[2014年(平成25年):総務省統計局「人口推計」]

【図表 2-1-6】 75 歳以上人口の総人口比順位

順位	都道府県	比率	順位	都道府県	比率
1	秋田県	18.4	6	山口県	16.3
2	島根県	18.0	7	徳島県	16.3
3	高知県	17.4	8	鹿児島県	16.2
4	山形県	17.0		全国	13.0
5	岩手県	16.1			

[国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3月)]

第2節 世帯構造の現状と将来推計

1 世帯構造の現状と将来推計

- ・ 本県の全世帯に占める高齢夫婦世帯の割合は、13.1%であり、全国の10.4%を上回っている。
- ・ 同じく高齢単身世帯の割合は、14.1%であり、全国で最も高い。
- ・ また、二次医療圏ごとにみると、高齢夫婦世帯と高齢単身世帯が占める割合が最も高い医療圏は曾於医療圏であり、高齢単身世帯が占める割合が最も高い医療圏は南薩医療圏となっている。

【図表2-2-1】高齢単身世帯及び高齢夫婦世帯の状況

区分	年	一般世帯数 (千世帯)	高齢単身世帯		高齢夫婦世帯	
			一般世帯に 占める割合	全国 順位	一般世帯に 占める割合	全国 順位
鹿児島県	2010年 (平成22年)	727	14.1%	1位	13.1%	3位
	2035年 (平成47年)	622	20.1%	1位	14.8%	2位
全国	2010年 (平成22年)	51,842	9.6%	-	10.4%	-
	2035年 (平成47年)	49,555	15.4%	-	12.6%	-

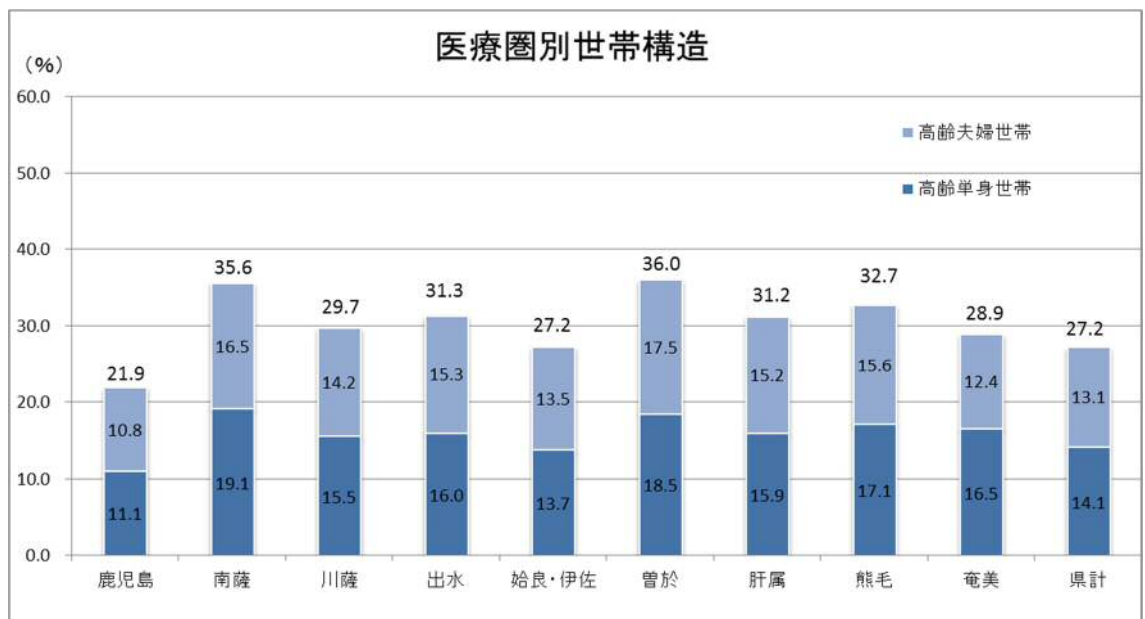
[平成22年(注1)：総務省「国勢調査」]

[平成47年(注2)：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(H26.4月)」]

(注1)「高齢夫婦世帯」は、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯をいう

(注2) 「高齢夫婦世帯」は、世帯主の年齢が65歳以上の世帯をいう

【図表2-2-2】二次医療圏別の高齢夫婦世帯・高齢単身世帯構成比



[平成22年：総務省「国勢調査」]

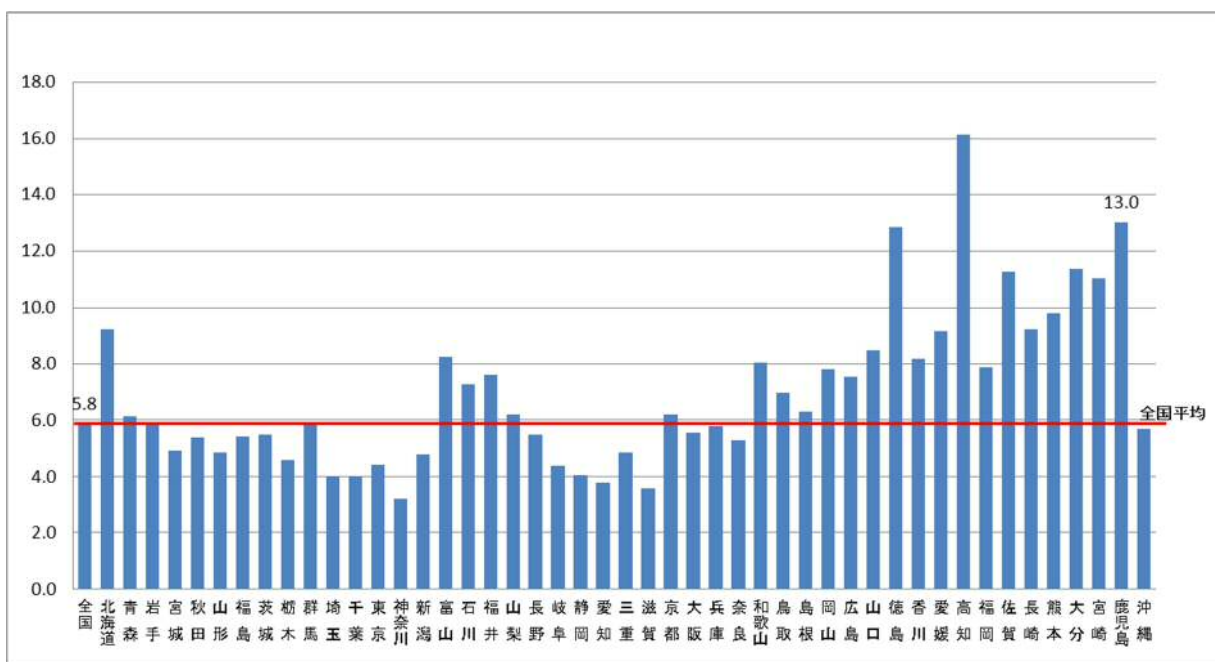
第3章 本県の医療提供体制の現状

第1節 医療施設

1 病院数

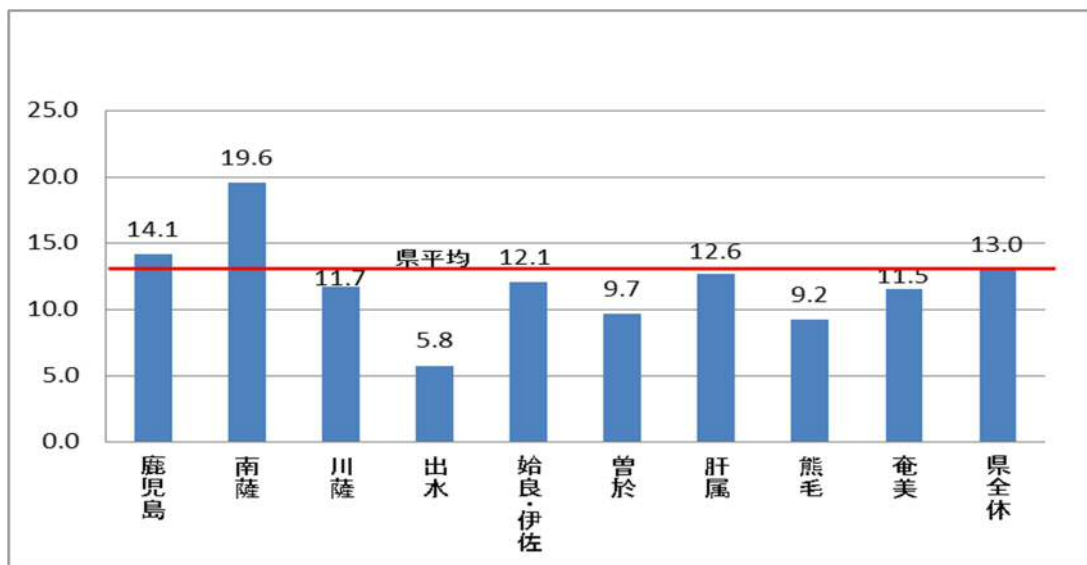
- ・ 本県の一般病院数は人口 10 万人当たり 13.0 で、全国の 5.8 を大きく上回っている。
- ・ 二次医療圏別にみると、南薩医療圏が 19.6 と最も高く、出水医療圏が 5.8 と最も低い。

【図表 3-1-1】 都道府県別人口 10 万人当たり一般病院数



[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

【図表 3-1-2】 医療圏別 10 万人当たり一般病院数

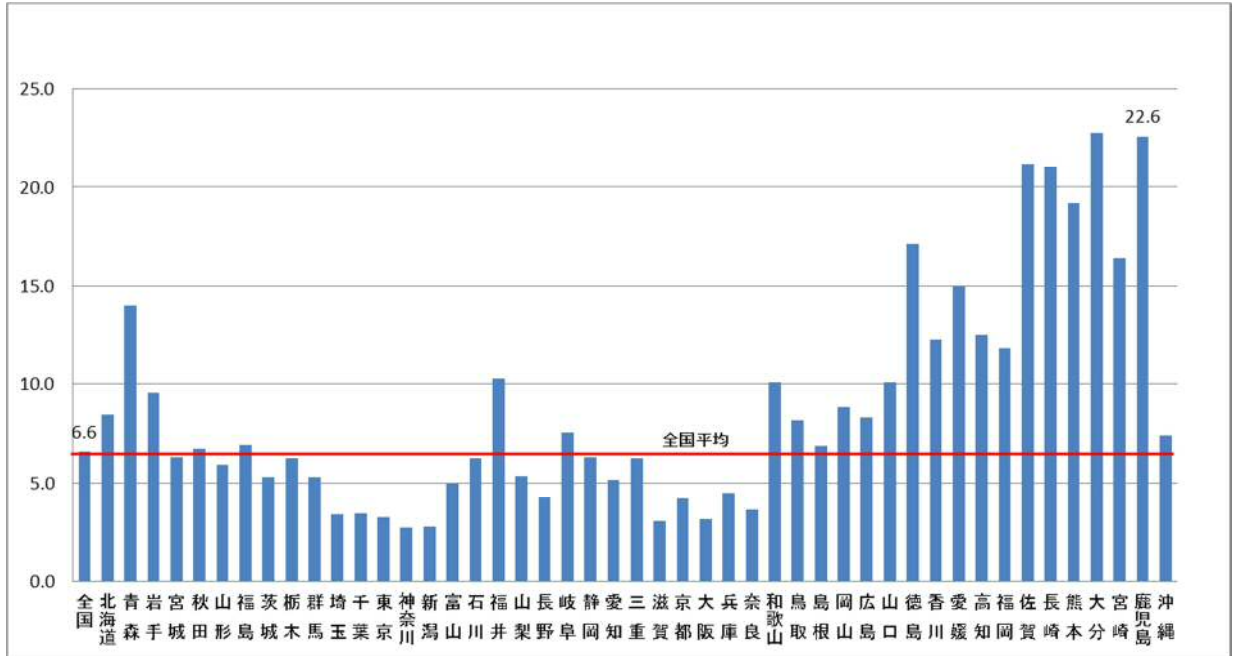


[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

2 有床診療所数

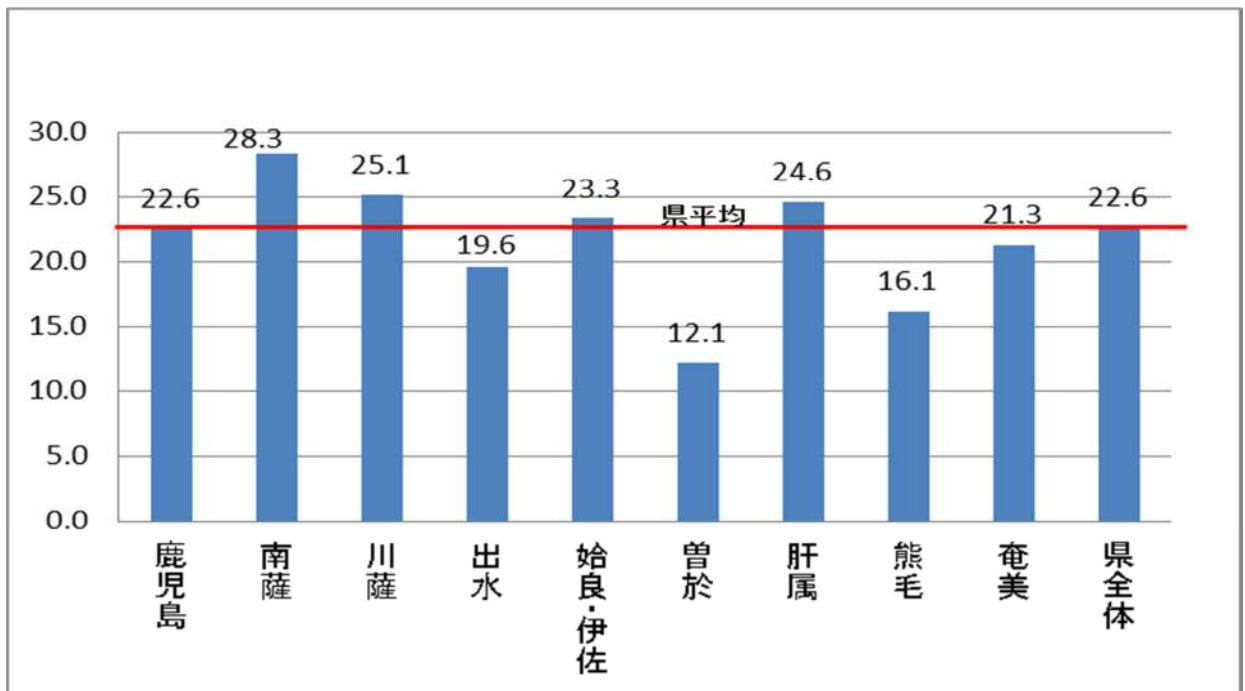
- ・ 本県の有床診療所数は人口 10 万人当たり 22.6 で、全国の 6.6 を大きく上回っている。
- ・ 二次医療圏別にみると、南薩医療圏が 28.3 と最も高く、曾於医療圏が 12.1 と最も低い。

【図表 3-1-3】 都道府県別人口 10 万人当たり有床診療所数



[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

【図表 3-1-4】 医療圏別人口 10 万人当たり有床診療所数



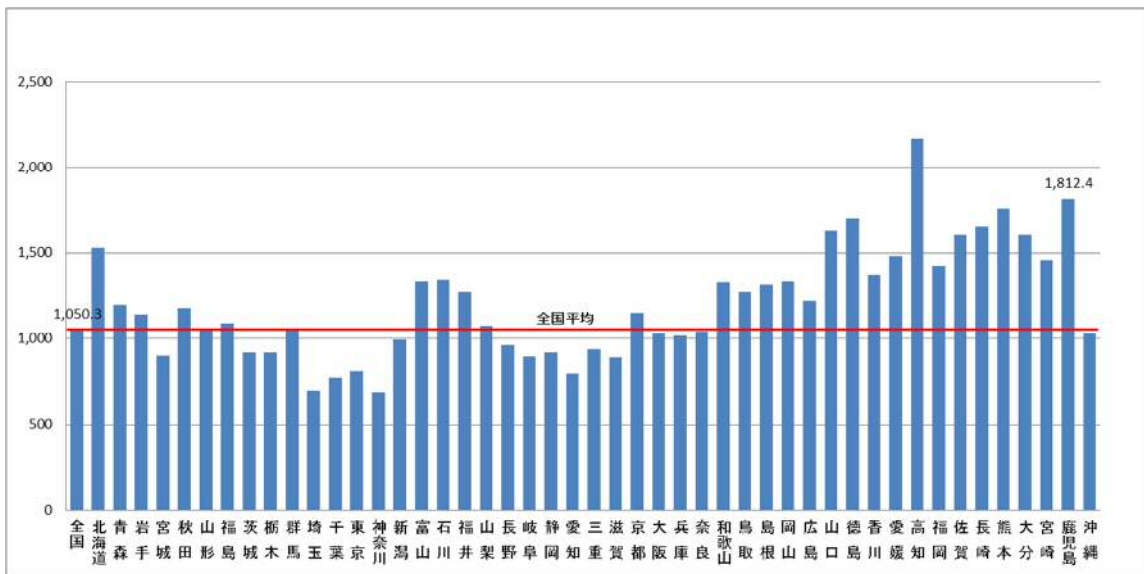
[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

第2節 病床数

1 一般・療養病床数

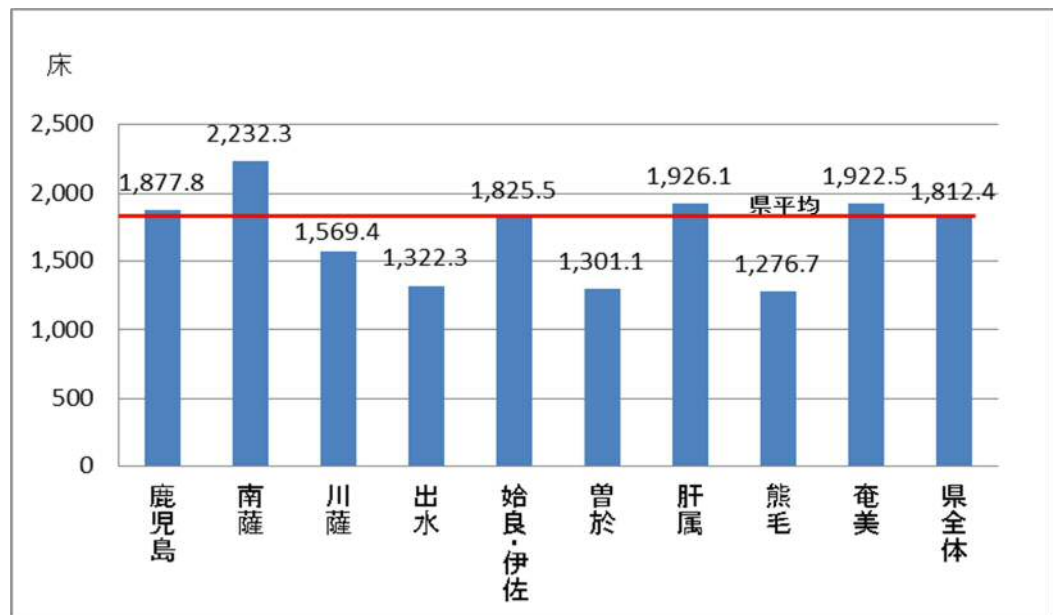
- ・ 本県の一般・療養病床数は人口 10 万人当たり 1,812.4 床であり、全国の 1,050.3 床を大きく上回っている。
- ・ 二次医療圏別にみると、南薩医療圏が 2,232.3 床と最も高く、熊毛医療圏が 1,276.7 床と最も低い。

【図表 3-2-1】 都道府県別人口 10 万人当たりの一般・療養病床数



[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

【図表 3-2-2】 医療圏別人口 10 万人当たりの一般・療養病床数

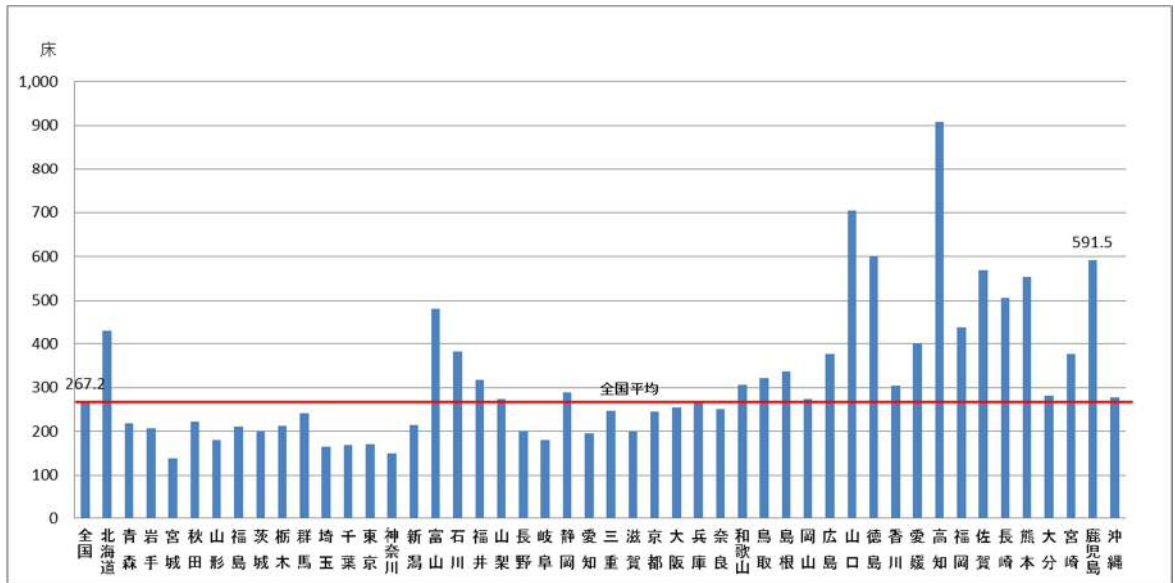


[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

2 療養病床数

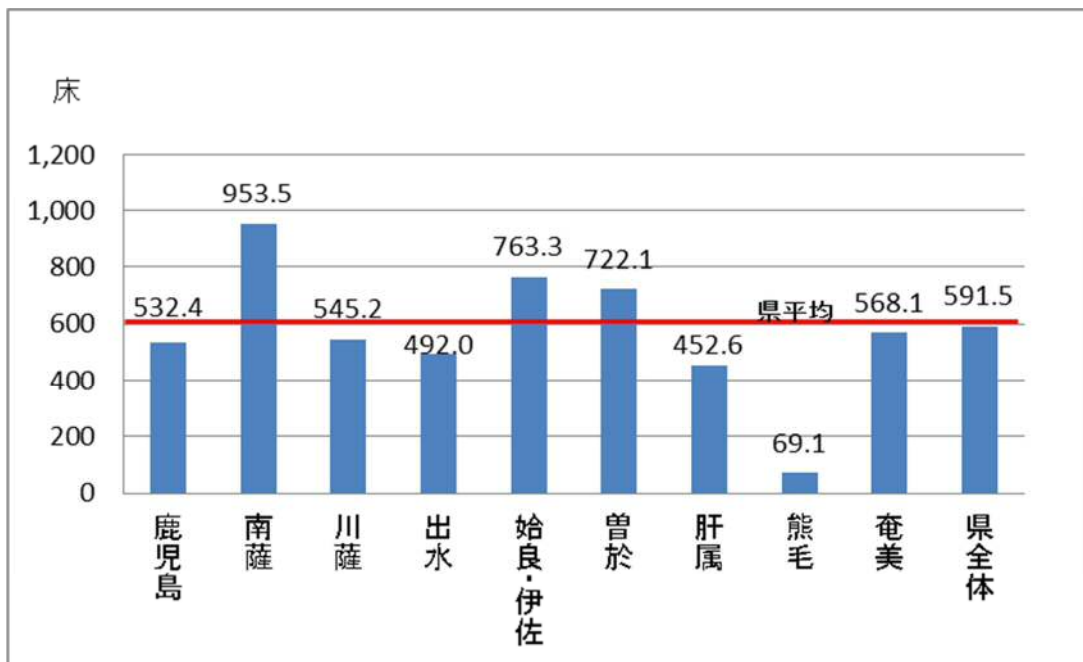
- ・ 本県の療養病床数は人口 10 万人当たり 591.5 床であり、全国の 267.2 床を大きく上回っている。
- ・ 二次医療圏別にみると、南薩医療圏が 953.5 床と最も高く、熊毛医療圏が 69.1 床と最も低い。

【図表 3-2-3】 都道府県別人口 10 万人当たりの療養病床数



[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

【図表 3-2-4】 医療圏別人口 10 万人当たりの療養病床数



[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

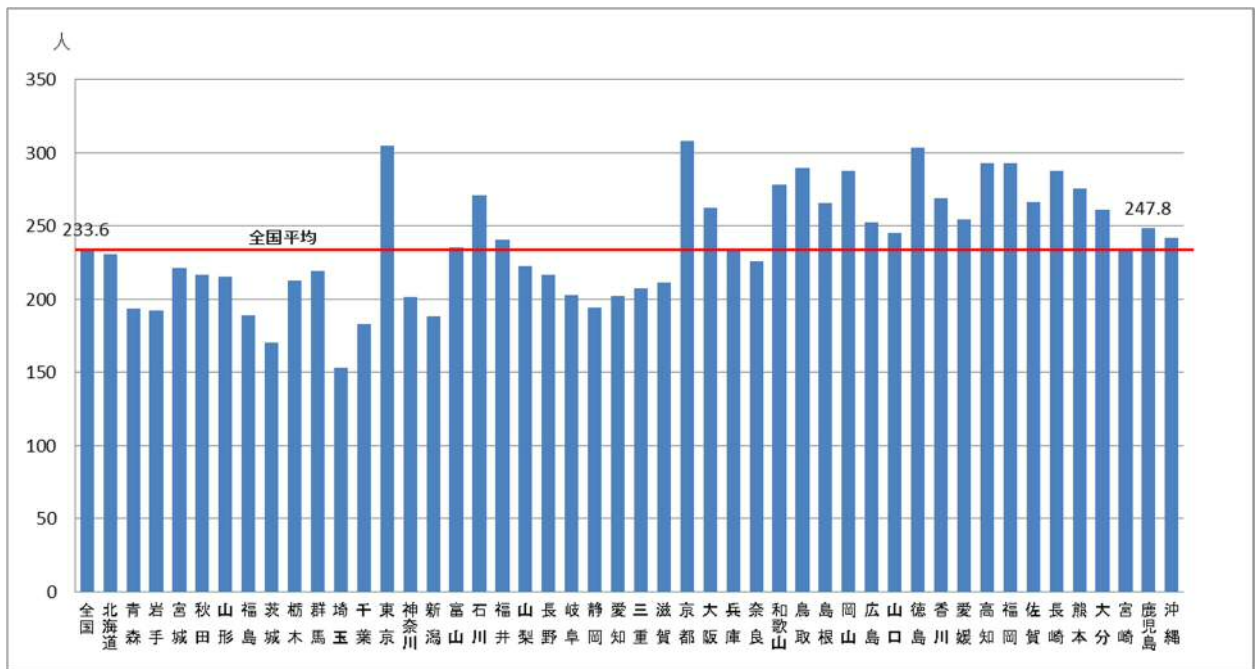
第3節 医療従事者の状況

1 医師の状況

(1) 医師数

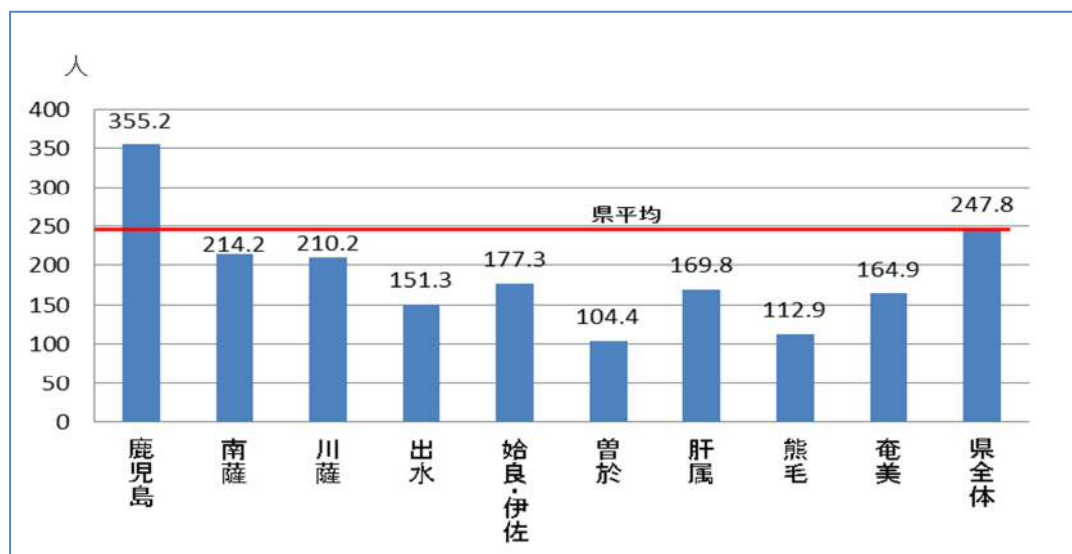
- ・ 本県の医療施設において従事している医師数は 4,134 人、人口 10 万人当たり 247.8 人であり、全国の 233.6 人を上回る。
- ・ 人口 10 万人当たりの数を二次医療圏別にみると、鹿児島医療圏が 355.2 人と最も高く、曾於医療圏が 104.4 人と最も低い。

【図表 3-3-1】 都道府県別人口 10 万人当たりの医療施設従事医師数



[厚生労働省「平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査」]

【図表 3-3-2】 医療圏別人口 10 万人当たり医療施設従事医師数

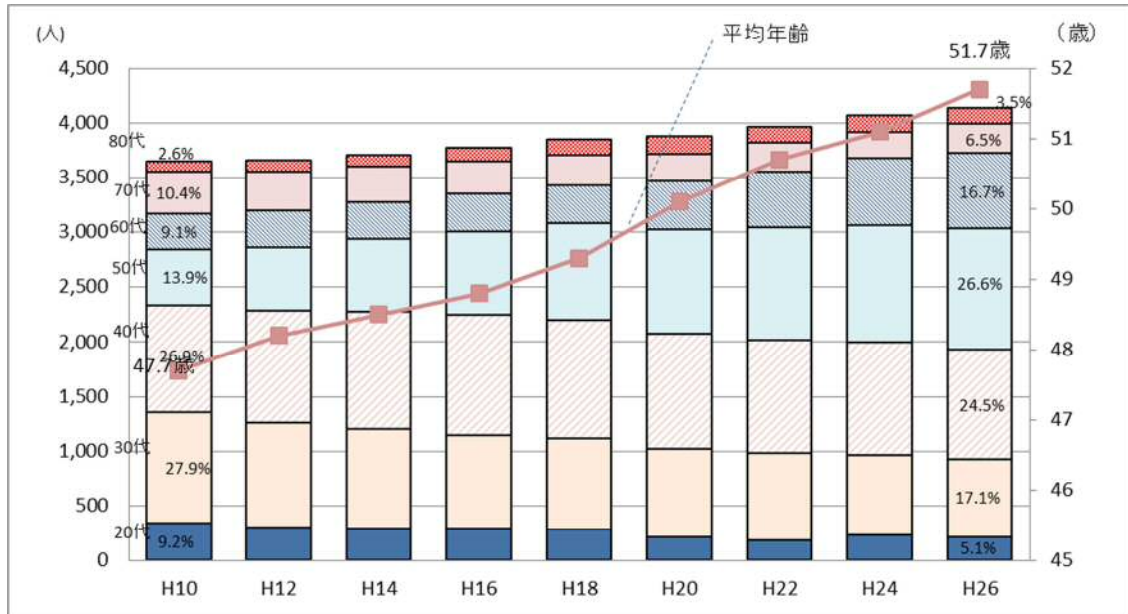


[厚生労働省「平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査」]

(2) 医師の年齢構成

- 平成10年以降の本県の医師の年齢階層別の構成比をみると、20代・30代の構成比が減少している一方で、50代・60代の構成比が増加しており、医師の平均年齢を上昇させている。

【図表3-3-3】医師の年齢構成の推移

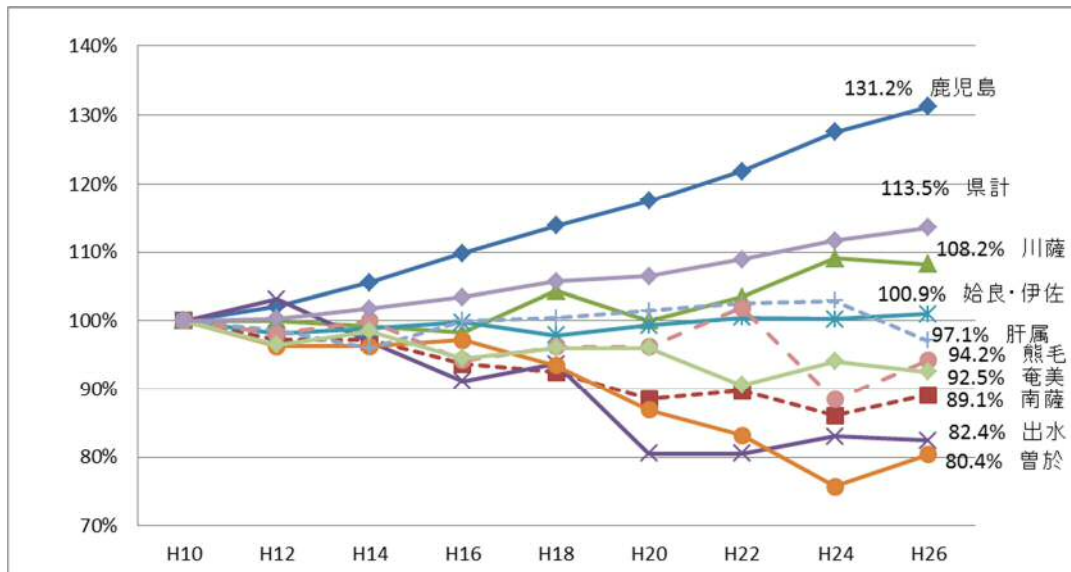


[厚生労働省「平成10～26年医師・歯科医師・薬剤師調査」]

(3) 二次医療圏別の医師の増減

- 二次医療圏別にみると、平成10年以降の医師数は、鹿児島、川薩及び始良・伊佐医療圏において増加している一方、その他の医療圏では減少している。

【図表3-3-4】医療圏別医師の増減率

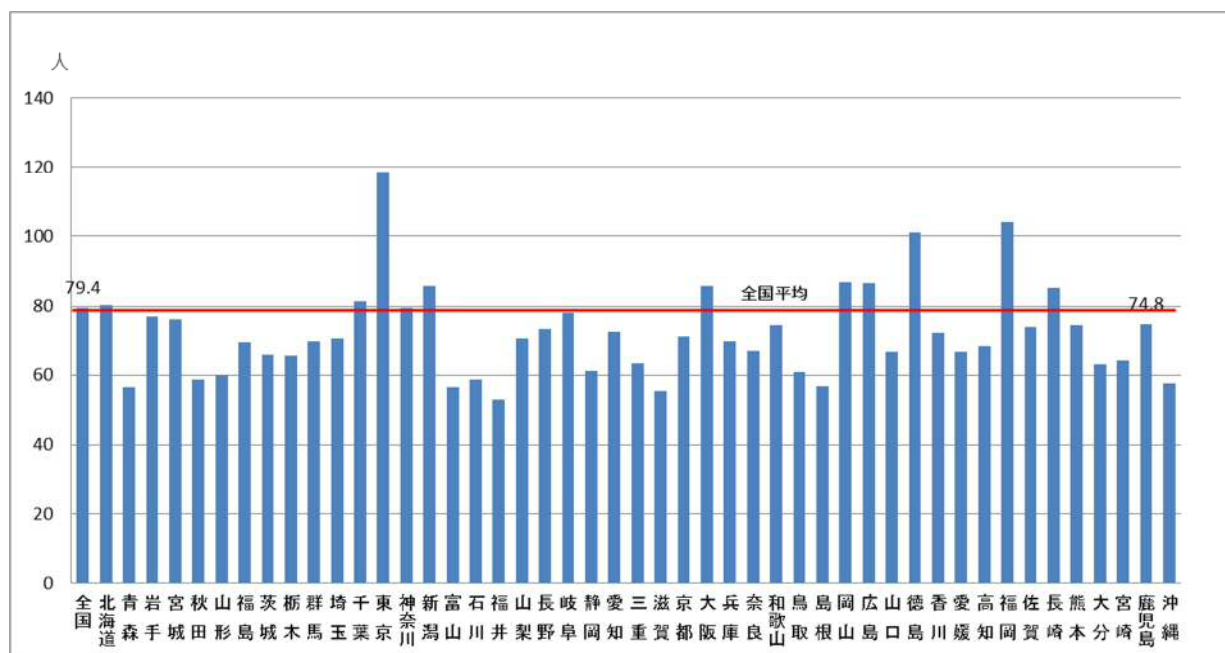


[厚生労働省「平成10～26年医師・歯科医師・薬剤師調査」]

2 歯科医師数

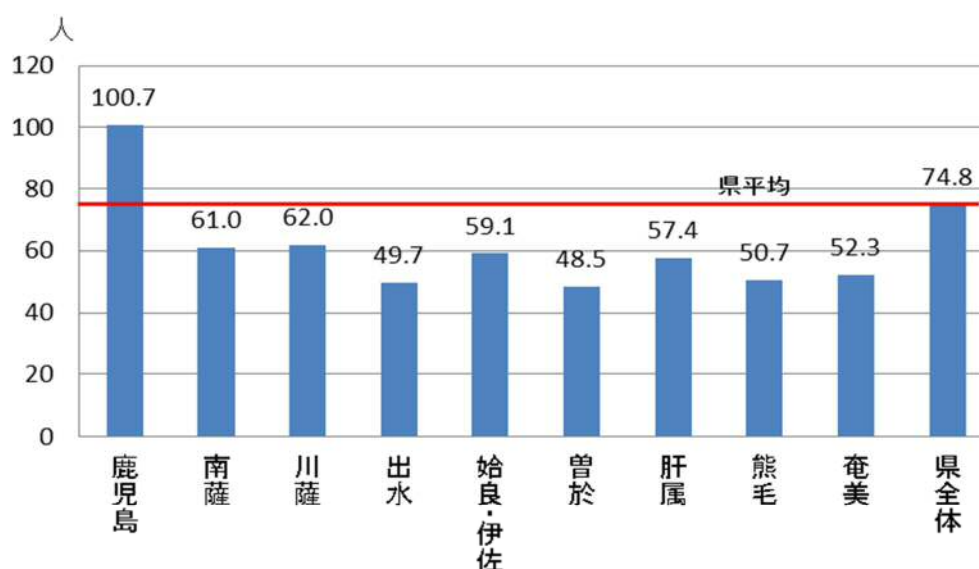
- ・ 本県の医療施設において従事している歯科医師数は 1,247 人、人口 10 万人当たり 74.8 人であり、全国の 79.4 人を下回る。
- ・ 人口 10 万人当たりの数を二次医療圏別にみると、鹿児島医療圏が 100.7 人と最も高く、曾於医療圏が 48.5 人と最も低い。

【図表 3-3-5】 都道府県別人口 10 万人当たりの医療施設従事歯科医師数



[厚生労働省「平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査」]

【図表 3-3-6】 医療圏別人口 10 万人当たりの医療施設従事歯科医師数

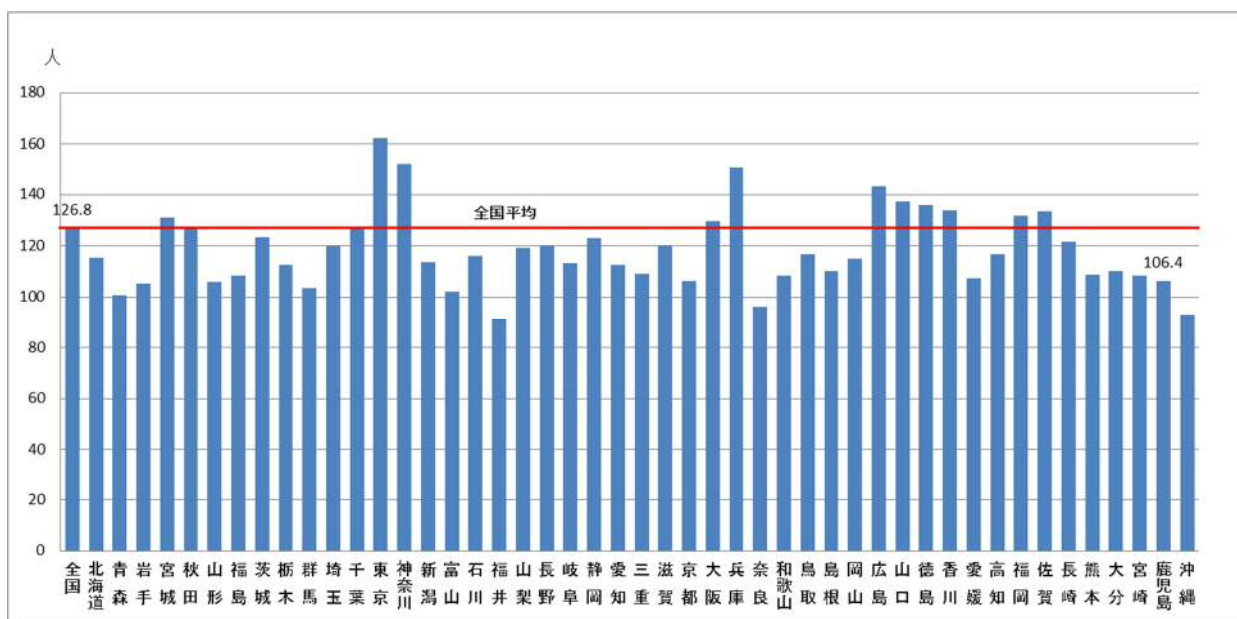


[厚生労働省「平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査」]

3 薬剤師数

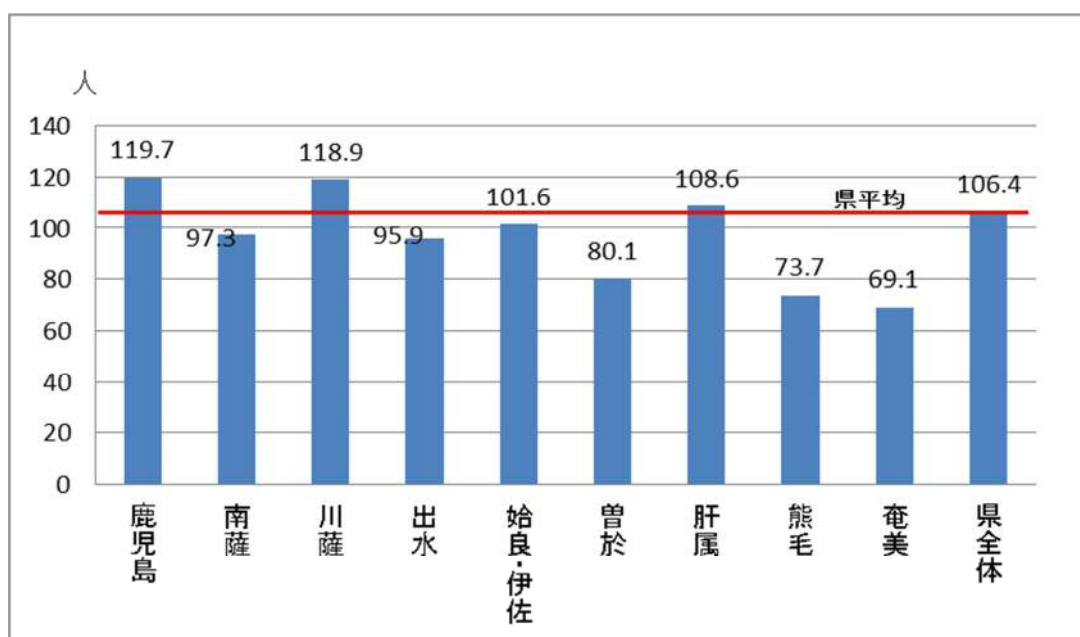
- ・ 本県の薬局において従事している薬剤師数は 1,774 人、人口 10 万人当たり 106.4 人であり、全国の 126.8 人を下回る。
- ・ 人口 10 万人当たりの数を二次医療圏別にみると、鹿児島医療圏が 119.7 人と最も高く、奄美医療圏が 69.1 人と最も低い。

【図表 3-3-7】 都道府県別人口 10 万人当たりの薬局従事薬剤師数



[厚生労働省「平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査」]

【図表 3-3-8】 医療圏別人口 10 万人当たりの薬局従事薬剤師数



[厚生労働省「平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査」]

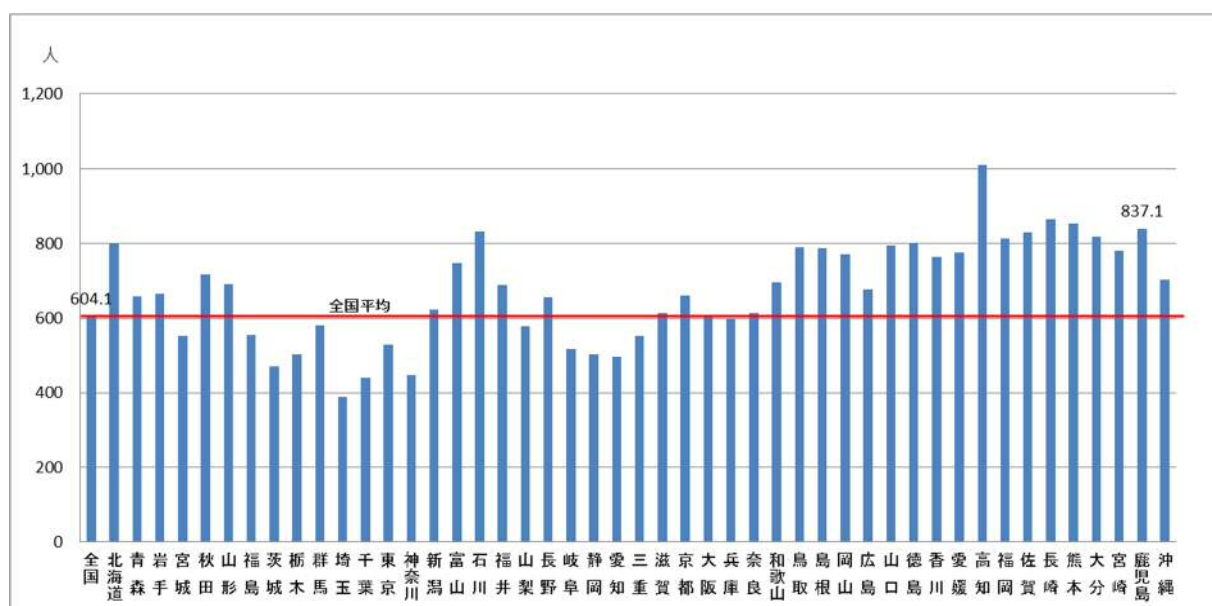
4 看護職員の状況

(1) 職員数

① 看護師数

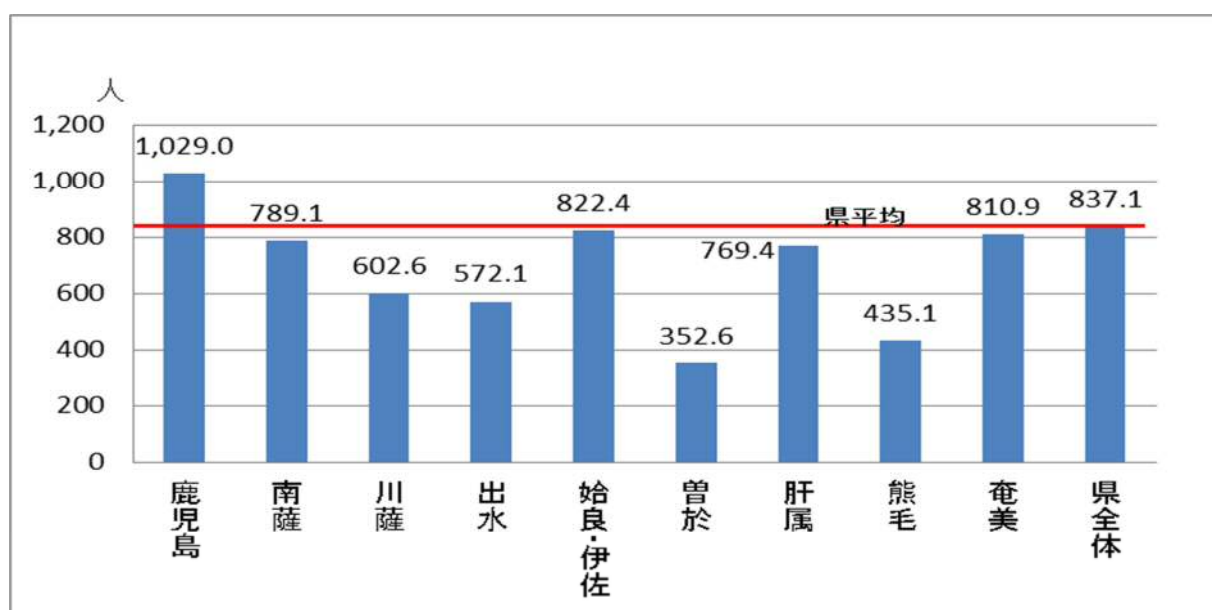
- ・ 本県の医療施設において従事している常勤換算看護師数は 13,963 人、人口 10 万人当たり 837.1 人であり、全国の 604.1 人を大きく上回っている。
- ・ 人口 10 万人当たりの数を二次医療圏別にみると、鹿児島医療圏が 1,029 人と最も高く、曾於医療圏が 352.6 人と最も低い。

【図表 3-3-9】 都道府県別 10 万人当たり常勤換算看護師数



[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

【図表 3-3-10】 医療圏別人口 10 万人当たりの常勤換算看護師数

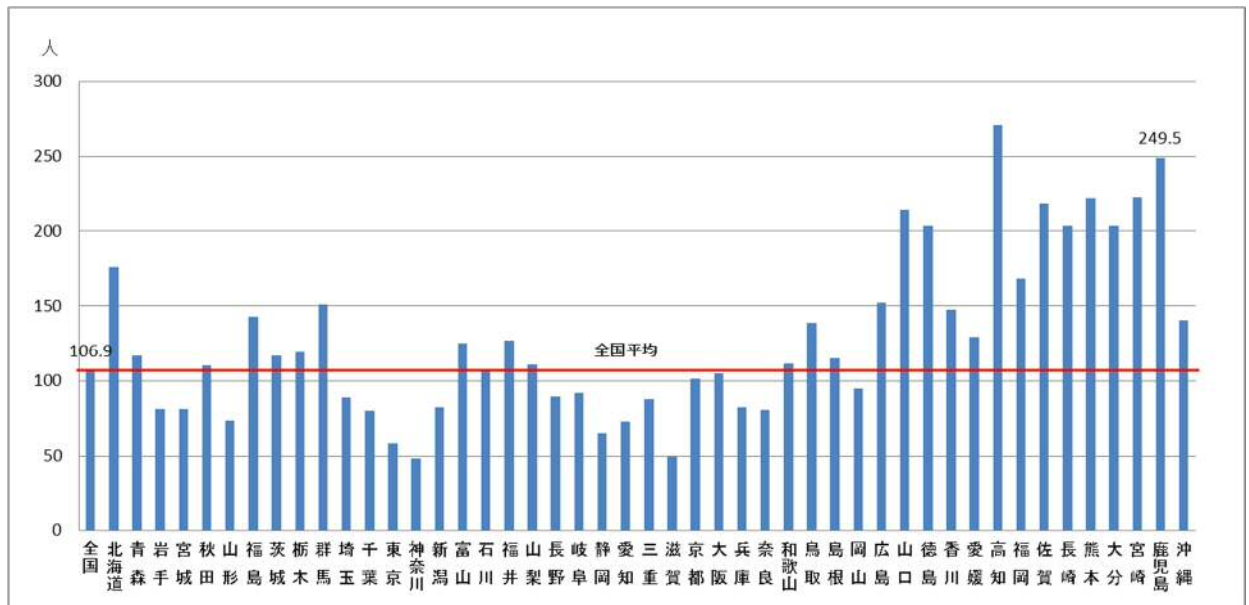


[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

② 准看護師数

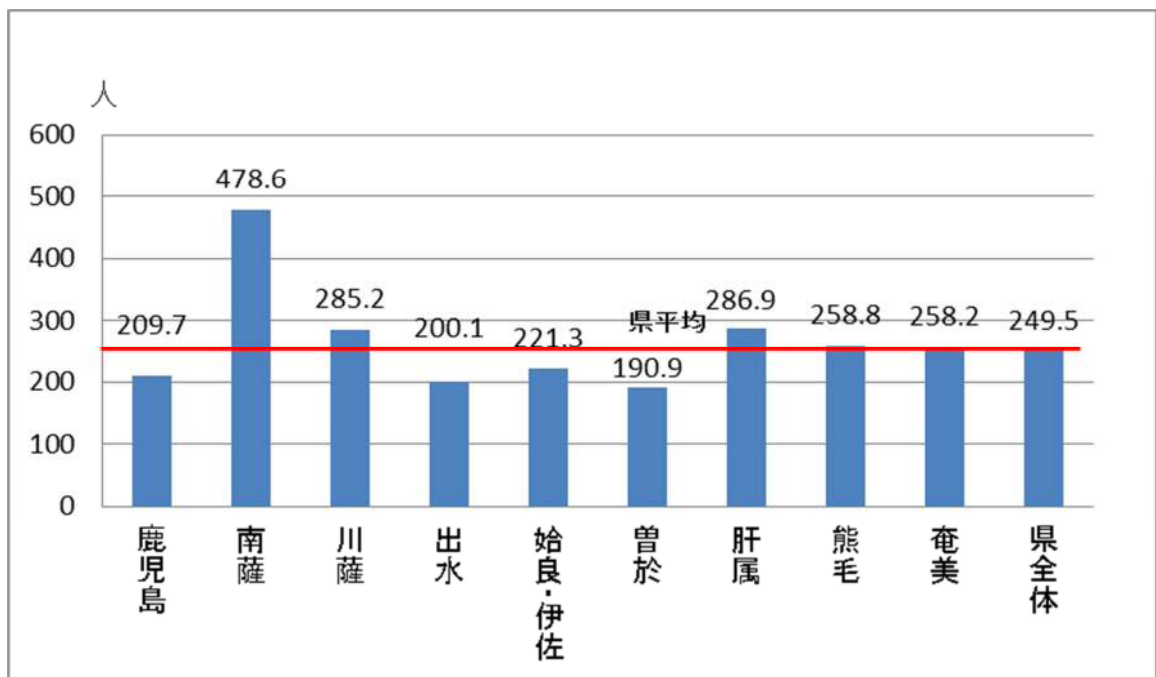
- ・ 本県の医療施設において従事している常勤換算准看護師数は 4,161 人、人口 10 万人当たり 249.5 人であり、全国の 106.9 人を大きく上回っている。
- ・ 人口 10 万人当たりの数を二次医療圏別にみると、南薩医療圏が 478.6 人と最も高く、曾於医療圏が 190.9 人と最も低い。

【図表 3-3-1 1】 都道府県別 10 万人当たり常勤換算准看護師数



[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

【図表 3-3-1 2】 医療圏別人口 10 万人当たりの常勤換算准看護師数



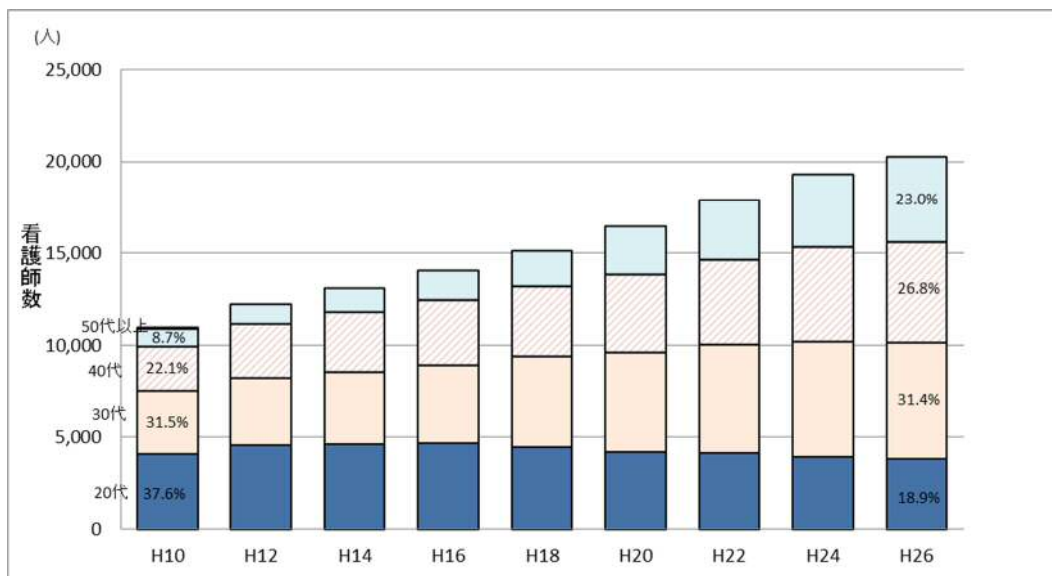
[厚生労働省「平成 26 年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」]

(2) 年齢構成

① 看護師

- 平成10年以降の本県の看護師の年齢階層別の構成比をみると、20代の構成比が減少している一方で、40代・50代以上の構成比が増加しており、特に50代以上の層の増加が大きい。

【図表3-3-13】看護師の年齢構成の推移

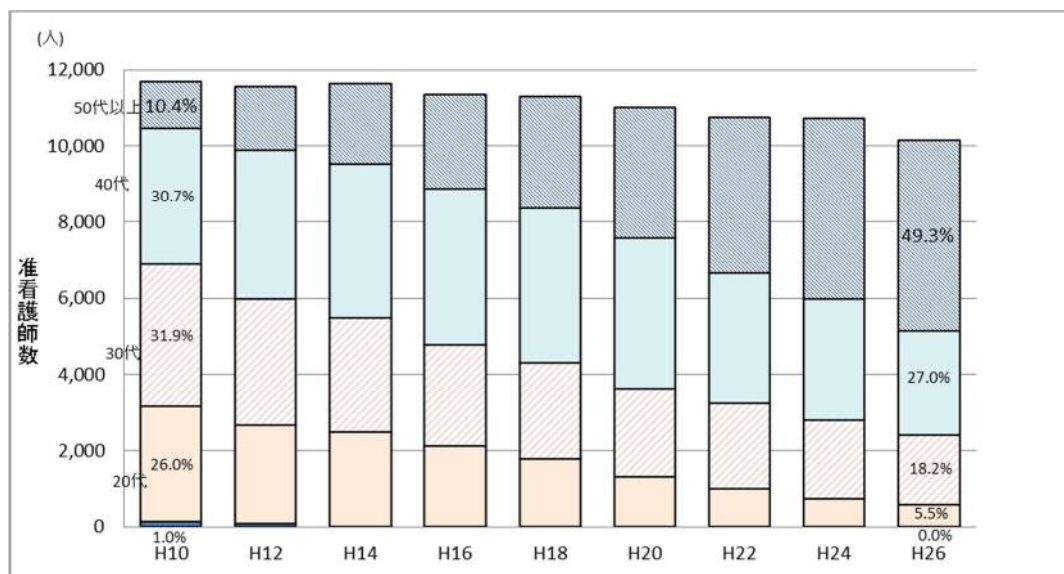


【鹿児島県「平成11年～27年鹿児島県看護関係者の現状」】

② 准看護師

- 平成10年以降の本県の准看護師の年齢階層別の構成比をみると、50代以上の層の増加が大きく、その他の10代から40代の層は全て減少している。

【図表3-3-14】准看護師の年齢構成の推移



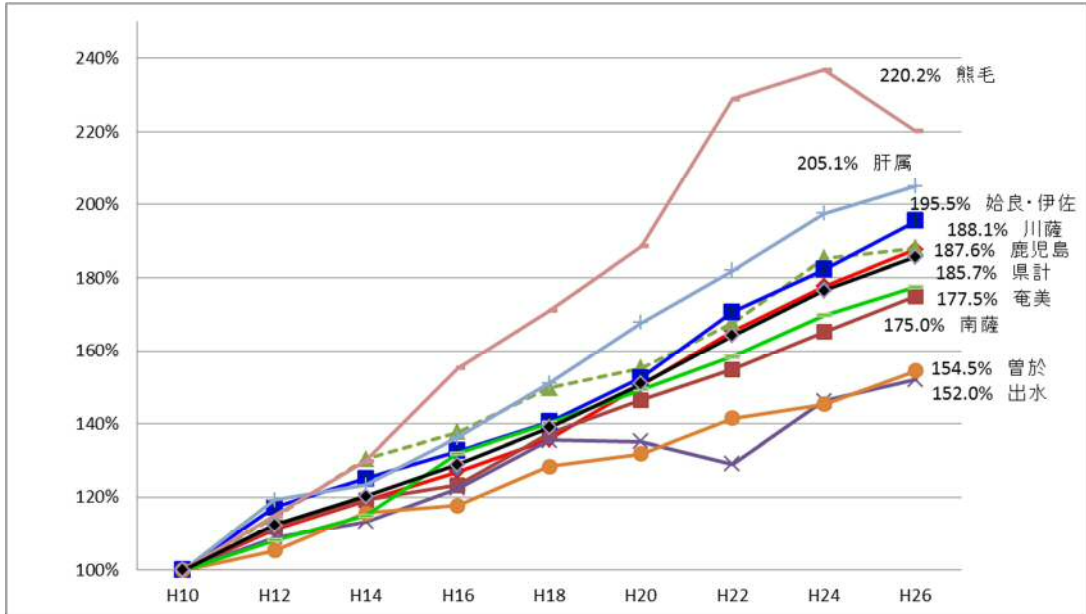
【鹿児島県「平成11年～27年鹿児島県看護関係者の現状」】

(3) 二次医療圏別の増減

① 看護師

- 二次医療圏別にみると、看護師数は全医療圏において、平成10年以降増加している。

【図表3-3-15】医療圏別看護師の増減率

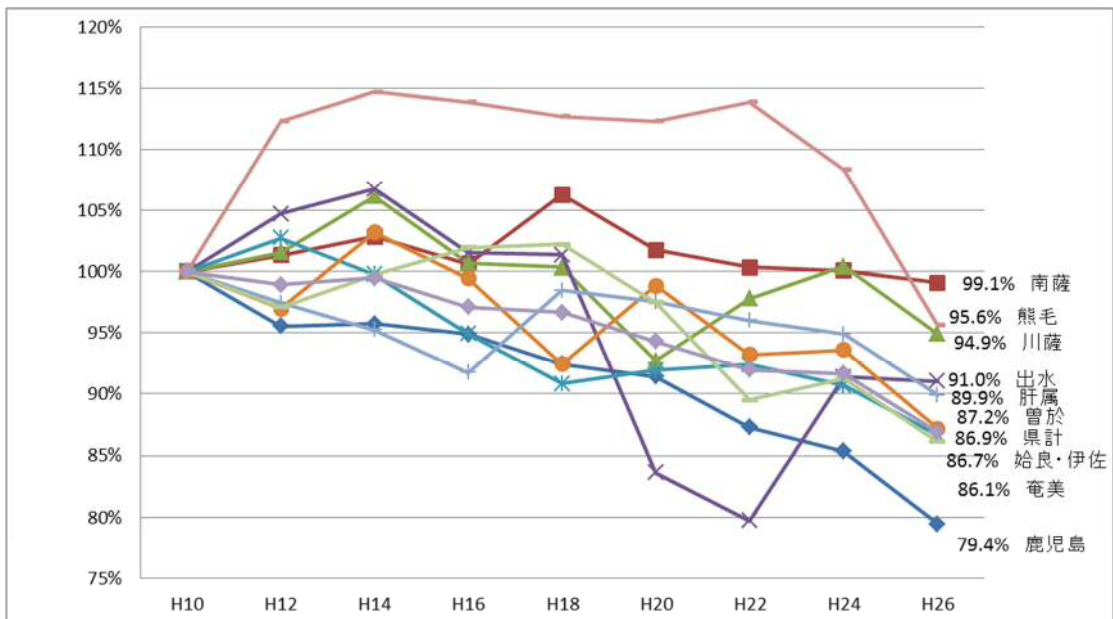


【鹿児島県「平成11年～27年鹿児島県看護関係者の現状」】

② 准看護師

- 二次医療圏別にみると、准看護師数は全医療圏において、平成10年に比べて減少している。

【図表3-3-16】医療圏別准看護師の増減率



【鹿児島県「平成11年～27年鹿児島県看護関係者の現状」】